

会 議 録

会 議 名	令和6年度第1回東浦町子ども・若者会議	
開 催 日 時	令和6年7月3日（水）午前10時00分から午前11時45分	
開 催 場 所	東浦町役場 合同委員会室	
出 席 者	委 員	原田委員（会長）、石原委員（副会長）、 山崎（千）委員、石川委員、舟橋委員、 山崎（紀）委員、友永委員、浅井委員、 岡本（貴）委員、中西委員、加藤委員、 山田委員
	事務局	健康福祉部長、児童課長、児童課指導保育士、 総合子育て支援センター所長、 健康課長、学校教育課長、生涯学習課長、 生涯学習課生涯学習係長、児童課保育係長、 児童課児童福祉係長、児童課保育係主査、 児童課児童福祉係主査、児童課保育係主事
欠席者	恒川委員、岡本（嘉）委員、竹内委員、中山委員、吉田委員、水野委員	
議 題 (公開又は非公開の別)	東浦町こども計画について（公開）	
傍 聴 者 の 数	0名	
報 告 内 容 (概 要)	東浦町こども計画について ※事務局からの報告等及び委員からの意見等は別紙のとおり。	
備 考	・ 議題前：①児童課長より会議設置概要の説明 ②会長・副会長選出 - 会長 原田委員 副会長 石原委員 ③会長挨拶 ・ 議題後：熱中症警戒アラートについて	

別紙 報告内容（概要）

事務局	<u>議題 東浦町こども計画について</u> 「東浦町子育て支援に関するアンケート調査 調査結果報告書」、「東浦町こども計画の概要及び策定スケジュール」、「東浦町こども計画施策体系（案）」について、それぞれ事務局より説明。 【別冊資料 東浦町子育て支援に関するアンケート調査 調査結果報告書について】 ・調査対象は、東浦町在住就学前児童0歳～5歳 1,000人、東浦町在住小学生6歳～12歳 500人を無作為で選出。 ・調査期間は令和6年1月29日～2月13日、調査方法は郵送で、通知文と調査票を配布し、二次元バーコードを読み取ったウェブ回答で行う。 ・有効回答数は、就学前児童 454件・有効回答率 45.4%、小学生 247件・有効回答率 49.4%。
事務局	【資料2 東浦町こども計画の概要及び策定スケジュールについて】 ・計画策定の背景として、「こども基本法」「こども家庭庁の発足」「こども大綱」の流れを確認。 ・「第2期子ども・子育て支援事業計画」が終了することに伴い、子ども・子育て支援法、次世代育成支援対策推進法、子どもの貧困対策の推進に関する法律等に基づいた、こども施策に係る一体的な計画として「東浦町こども計画」を策定する。
事務局	【資料3 東浦町こども計画施策体系（案）について】 ・現行の「第2期子ども・子育て支援事業計画」を、「こども大綱」と「ニーズ調査結果等から見た主な課題」を基に見直すことで、課題の整理を行った。 ・基本理念は、「のびやかなこどもの育ちと子育ての喜びが実感できる笑顔あふれるまち」とする。 ・基本目標は、「1 こどもの将来にわたるウェルビーイングを支援します」「2 子育て・子育てを支援します」「3 保護者が安心して子育てができる環境を確保します」の3つとする。 ・以上の内容を中心とし、本町の実情や今後の動向を踏まえた上で、取り組むべき課題における基本施策を盛り込み、こども計画素案を作成する。
委員	<質疑意見等> 見直しの視点は、国が掲げている「こども大綱」と「ニーズ調査結果」からとのことだが、2期計画の総括、反省点や振り返りというものはされているのか。
事務局	年に1度、計画にある各課の施策の反省点や進捗の振り返りをしている。さらに、国から言われていることや住民へのニーズ調査も踏まえて、3期に反映させたつもりである。2期の反省点を踏まえ、3期の計画策定につなげている。作って終わりではいけないので、作った後も適切に進捗管理をしていきたい。
委員	各課が、年度末ごとに反省や振り返りした情報が集まってくるような仕組みになっているということか。

事務局	そうである。
事務局	補足で、事業評価というものを毎年行っている。2期も個別の施策の評価を行った。おおむね順調に進んでいるところではあるが、その中でも新たな課題や問題が浮き彫りになるということも十分にあり得るので、そういう個別具体的な事業について、各課で前計画からの見直し点があるところは、次回の会議等で個別具体的な事業を提示できればと思う。
委 員	計画策定にあたり2期も3期もアンケートを実施しているが、そのアンケートの比較分析は行っているのか。2点気になる変化があったが、資料3に明言されていないようである。1点目は、アンケート調査結果報告書9ページ「日常的もしくは緊急時にみてもらえる親族・知人はいますか」で、「いずれもない」と答えた人が、2期が9.6%に対し3期は17.8%となっている。みてもらえる人が減っている印象を受けた。2点目は、アンケート調査結果報告書60ページ「地域の子育て支援事業の利用状況について」で、2期を策定する時にはなかった項目と思うが、今回「その他町内の民間施設等で実施している類似の事業に参加している」という選択肢が増え、76.1%であった。それに対して「うららん」は4.1%となっている。「うららん」は、2期では25.5%であったため、大変減ったように感じられる。「その他町内の民間施設等で実施している類似の事業」の具体的な事業というのは把握されているのか。また、この2点の変化は計画に反映されているのか。
事務局	1点目、親族にみてもらえる方が減っていることに関して、他の影響があると思う。今年度、石浜の県営住宅の敷地内に「あしたがすき保育園」ができた。育児疲れなどを理由としてお子さんを預かるというリフレッシュ保育を行っていただいている。核家族化の進行もあり親族の協力が得られない社会情勢の中で、行政だけでは事業が行き届かないという観点から、町全体での子育て支援策の一環として、民間保育所を活用しながら行っているところである。そういったところが、親族にみてもらえる方が減っているという数字につながっているのではないかな。 2点目、「うららん」の使用状況や民間施設実施の事業も、同じような事由ではないかと感じている。民間施設でいうと、本日東ヶ丘幼稚園の園長先生にも参加していただいているが、東ヶ丘幼稚園では「みつばち組」を保育室に設置しており、いわゆるこれが子育て支援拠点で親子が集まって過ごせる場所である。先ほどの「あしたがすき保育園」でも、「あしたもあそぼう」という拠点がある。国も、子育て支援センターや地域子育て支援拠点事業は各エリアにあった方がよいという見解であるため、公設だけではなく民間でも子育て支援拠点を作っていきながら施策を進めていくと、必然とこういった数字になっていくのではないかな。しかし、やはり「うららん」は立派な施設であるので、こういった事業も充実させていきながら、「うららん」のパーセンテージも増やす努力をしていきたい。
委 員	実際に「うららん」の利用者は減っているのか。他の施設が充実したから「うららん」に来る親子が減っているということか。
事務局	令和5年度の年間来所者数は、「うららん」は、23,826人となっている。対して

	「あしたがすき保育園」内の「あしたもあそぼう」は、3,460人となっている。コロナ前と比べると「うららん」の利用者数は減っているが、少子化ということもあると思う。事業の内容も、赤ちゃんの時期の方が交流できるような新しいものを取り入れたり、おはなししましょうといった会をしたりして工夫している。ぜひ利用してほしい。
委 員	これだけ民間の子育て支援事業のパーセンテージが上がったということは、民間施設に何か魅力的なものがあつたということか。何を求めて民間に参加するのが分かれば、より子育て世代が求めているものが見えてくるのではないかと思った。
委 員	児童館の託児のお手伝いをしているが、やはり来所者は減っている。「あしたがすき保育園」は、お母さんが子どもを遊ばせながらお茶を飲めたり自分の好きなことをやれたりするのが魅力のようで、特に講座が人気というわけではないようである。他のお母さんとお茶を飲みながらお話しができる、お母さんも子どもも好きなことをやれるので、多く来所していると聞いている。
委 員	私も何度か「あしたがすき保育園」の「あしたもあそぼう」に参加している。講座もあるが、保育士の方が1～2名いて子どもが遊んでいる間もお茶を飲んでいてよく、園庭や上のホールも行ける。在園児の子に交じったりすることもでき、自由に遊ばせてもらえる場所である。ゆったりしつつも自由もあり、安心感もある。ただ、児童館も好きでよく利用している。
委 員	コロナもだいぶ影響しているのではないかと思う。東ヶ丘幼稚園では、コロナ禍になる前は、親子教室や体操教室、リトミック教室を毎月行っていた。20～30組が来て体験していただいたが、令和2年度に中止となった。令和5年度に再開し、体操教室、リトミック教室、園庭開放、保育室開放を始めた。なかなかの盛況ぶりで、たくさんの方に遊びに来ていただいている。一度でもこういうところを利用したというのが、こういうアンケートに反映してきているのではないかと思う。
委 員	東ヶ丘幼稚園を利用した場合は、「その他民間施設」に○をつけるということになるか。
委 員	私立幼稚園なので、民間に○となる。
委 員	民間として、学童の子どもの宿題塾をやっている。塾と名がつくけれども、子どもの放課後の居場所ということで、毎日無料でやっている。子どもたちが宿題を持ってきて、終わったら私たちが提供したおやつを食べ、見守りの大人たちと会話をしたり遊んだりという姿が見られるので、そういう場所が増えていったら素敵だと思うし、利用する子どもたちが増えてきているので、子どもたちのサードプレイスが必要だと改めて感じている。無料ということは持ち出しでやるということなので、地域の方におやつをご支援いただいたり、見守りを手伝っていただいたりしている。皆さんに協力していただいて子育てをすることができていると思うので、広まってほしい。

委 員	資料3の見直しの視点、③の主な課題の3つ目「ひとり親家庭の自立支援の推進」について。ひとり親家庭への支援となっているけれども、アンケート調査結果報告書の128ページでは、ひとり親に限らず「⑮子育ての出費がかさむ」と答えた保護者が多かった。先ほどの説明で、町として経済的支援を充実させていくという話があったと思うが、2人目の保育料無償化について、東浦町はどう考えているのか。近隣の市町村である東海市や大府市などは、今年度4月から始めたところだと思うが、考えを伺いたい。
事務局	2人目の無償化については、国基準と同じで、非課税世帯や年収360万円未満の方を対象とさせていただいているので、事業の拡大については今後検討していきたいと思っている。
委 員	資料3の②こども大綱の中で、ぜひ町として進めてほしいと思う項目を述べる。 1-(6)ヤングケアラーへの支援とあるが、実際にそういう方がいらっしゃるの で、よい計画ができればよいと思う。2-(2)-⑧高校中退の予防というのは、学 校で考えられていると思うが、中退後の支援がなかなか難しく、支援を待っている お母さんもいらっしゃるの、していただけたらうれしい。2-(3)-④悩みや不 安を抱える若者やその家族に対する相談体制の充実ということで、若者はなかなか 表現をしてくれず、家族が抱え込んだり行き詰まったりということがよく見られる ので、相談体制の充実をお願いしたい。3-(4)ひとり親家庭への支援ということ で、2期に、資格を無償で取れるというものがあったと思うが、資格を取る時に子 どもはどうするのかという声を聞いたことがあるので、3期はそれに応えるものを お願いしたいと思う。
事務局	ヤングケアラーは、まず把握が大事だと思っている。我々児童課が重きを置いて いるのは、保育園児や小学生低学年くらいの方になる。ただ、保育園の子をお迎え に来る際、中には兄弟が迎えに来るということもある。昔だと、家の手伝いをよく してくれるいい子だということであったと思うが、今の時代では、その子どもの将 来をおびやかすというところで、ヤングケアラーという言葉が誕生してきたと私は 認識している。ヤングケアラーをどう救うのかというと、家庭で苦しんでいないか ということを日常子どもと接する中で把握することが肝要であると考えているの で、学校と協力していきたい。仮に見つけたらどうするのかという話だが、今から 考えていこうとは思っているが、現在3歳未満の未就園児に対して、ヘルパー事業 というものを展開している。今後の検討だが、その中に対象を含めていけるのかと いうことも踏まえて考えていきたい。少し小さい子どもたちを主な対象としていた 児童課であったが、先ほどおっしゃった青年期、高校を卒業した後や資格を取得し た周りの環境の整備も含めて、今後の児童課の課題であると思う。
会 長	お迎えなど、本人はいいことをやっているの、ヤングケアラーだとは思っていな いが、周りから見るとその子の時間を奪っているということになってしまうので、 その辺りが難しいところではある。
委 員	私たちが知っている子は中学3年生であるが、学校に行けていない。お母さんは ひとり親で精神の病を持って寝ているので、家の全てをやっている。居場所がある

委員	ことはいいことだと思うが、学校に行っている暇がないというくらい、介護や家事をしている子がこの町にいることを、把握しておいてほしい。 ヤングケアラーの問題が出たが、2022 年、多くの機関でヤングケアラーについての調査が行われた。その中で、国の調査では、小学校 5 年の中では 16 パーセント、中学校 2 年では 11 パーセントくらいがヤングケアラーになっているという調査があった。独自に愛知県でも調査が行われている。先ほどから出ているが、本当に見つけるのが難しい。やっている子ども自身も、自分がそういう状態にあるということをつかていない。自然にそれが行われてしまっている。あるいは、子どもの中には、そういうことがあるということが誰かに分かったら、その家自身が偏見で見られてしまうこともあるので、なかなか声に出せないという話も出ていた。実際に、子どもたちが、自分がヤングケアラーだと自覚するにはどうすればよいのか。愛知県では、冊子を作って啓発をするという話が 2022 年 6 月 18 日の新聞に出ていた。県では、小学校 5 年から高校 3 年まで 54 万人に配布するということが書かれていたが、今現在、東浦町では、小・中に配布されているのか。
委員	ヤングケアラーはとても難しい。高学年くらいになると、子どもたちが上手に使い分けて利用するということがあったりする。今日は学校に行きたくないからと、ヤングケアラーとして家のことをする。逆に、私はヤングケアラーだと訴えてくる時もある。精神的だけではなくいろいろな障害をお持ちのご家庭もあり、学校から児童課に相談する機会も多い。現状、数が多い。
会長	ヤングケアラーの啓発冊子は配られているということである。 様々な事例があるということだが、その辺りも考慮してこども計画の中に少し入れていただけると有り難い。全員を救えるという計画ではないが、委員がある程度考えていかなければいけないと思う。こども計画をどうやって進めていくのか等皆さんに考えていただけるので、少数の問題でもあるかもしれないが、会議の中でいろいろなケースについて発言していただけると有り難い。
委員	アンケート調査結果報告書 123 ページ「東浦町の子育て支援の現状に対する満足度について」で、「満足している」「やや満足している」という回答がこれだけあるということで、私自身も町立の保育園で子どもがお世話になった。リフレッシュ保育も使わせていただいたし、児童館、「うららん」等も利用させていただいた。先生方に一生懸命やっていただいているので、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。いつも子どもたちのためにありがとうございます。 児童クラブ・学童について、広報等で、夏休み中のみの児童の定員がいっぱいで、一部児童館でしか受け付けられないというのを見た記憶があるが、本当は夏休み中に児童クラブに子どもを預けたいけれども結果的に預けられないという方が出てきているのかどうか、というところが気になっている。また、アンケートの自由記述で、児童クラブで有料のお弁当や軽食を出してほしいという回答があったが、お隣の刈谷市では、一部児童クラブでお弁当を出しているというお話がある。児童クラブに子どもを預けているお母さんは基本的にお仕事をされているので、お弁当を作るのが大変ではないかと感じるし、周りのお母さん方からもそういう声を聞くが、どのように考えているか。

事務局	保育現場の方には、この暑い中保育等をしていただいている。我々も頭が下がる思いである。 児童クラブについて2点ご意見をいただいた。夏休み期間中、これまで預かってきた定員もあり、定員に空きのある状況となっているのは一部となっている。これから働く世代がどんどん多くなっていく中で、児童クラブも多くの課題があると思っている。定員の数、先生の数、施設の面積の問題もあり、そちらも課題を抱えているので、学校も含めて相談をさせていただきながら、夏休み期間中も多く預かれるような体制を整備していきたいと思っている。 お弁当に関しては、まだ児童クラブだよりという形でしか保護者の方々には届いていないが、ちょうど今年の夏から、お試しということでお弁当業者についてのご案内をした。刈谷市ではシステムを導入して、いくつかのお弁当業者から簡易に発注できるような形をとっているが、東浦町はそこまでしていないので、保護者の方が直接お弁当業者に連絡をとり、そのお弁当業者が児童館に運ぶという進め方をしようと思っている。導入する前にアンケート調査を取ったところ、コンビニのお弁当は駄目だと思っていたとか、パンを買っていつでもよいということを知らなかったという方や、手作りのお弁当だけしか駄目と思っていた保護者もいらっしやったので、そうではなくて、簡易な昼食を準備していただくことも可能ですということを改めて周知させていただきながら行っている。お試しの状況を見ながら、児童館の先生に負担がかからないよう進めていきたい。
委 員	「あしたがすき保育園」の取組や東ヶ丘幼稚園の素晴らしい取組についてだが、私自身かなり歳なのでその取組は知らなかった。アンケート調査結果報告書138ページの自由意見で、情報提供の3つ目のところに、子どもの保育園・幼稚園・小学校の情報や地域のやっているイベント、地域のやっている習い事、子育て支援の情報を収集するのが非常に困難だと感じています、という記述がある。私たち社会教育委員会としては、高齢者のことについて研究しているが、やはりどこでどのようなことがおこなわれているかという情報が、口コミでもなかなか伝わってこないという方もおみえになるので、そういうことを考えると、情報提供について、できるだけ多くの人に知らせる方法を考えていただけると有り難い。
事務局	やはり必要な方に必要な情報が届くということは大事なことであり、行政が最も苦手なところではないかと認識している。町広報では、昨年度から、民間保育所がどこにあるのかということや、特徴も情報発信させていただいている。町広報を見ない方に対してはどうするのかという課題は残るが、これからの保育というところでは、官民連携ということで、公だけではなく民間さんの協力もいただきながら進めていくということが大事になってくるので、今日いただいたご意見も参考にしながら情報発信を考えていきたい。
委 員	私は障害者の方の会話の場を作っているのだが、精神障害者の方に話を聞くと、中学2年で学校に行けなくなりだんだん精神障害になっていったということであった。中学2年という年齢が大事であると思うので、見守りや支えがあると、その子が障害者にならなくて済むのではないかという希望を持っている。ぜひみんなで力を合わせて子育てに関わっていけたらと思う。

委 員	子どもや若者たちの地域活動のサポートの場として、東浦町は若者会議をやっていると思うが、生の子どもたちの声を反映させる仕組みとしてもっと発展させられたら面白いなと思っている。資料を作ってきたので配布する。後で目を通していただけると有り難い。
委 員	よその地域で、校内カフェや、校内で朝ご飯を食べようという地域のボランティア活動がある。子どもが地域の方たちを感じてもらえる場にもなる。学校がオープンになればと思う。
委 員	<u>その他</u> 森岡地区の学童の人数が多い。特に今年一気に増え、多いときは小学校の視聴覚教室を使っている。夏休みだけの利用だと入れないので、夏休み以外は行かないけれども入っているという声も聞き、本当に入りたい人が入れない。先生方も手厚く、子どもも学童が大好きなのでこちらはとても助かっているが、人数が多いため先生の負担も大きい。 友人の子が学習障害もあり不登校である。その友人は瀬戸市だが、瀬戸市は民間でフリースクールがあり値段も安いので、そこに行かせようと考えているそうである。そういう施設があるとよいなと思う。
事務局	森岡の学童が多いという件は、我々も承知している。今年度児童課と協議し、学校とも相談の上、今まで体育館や理科室を使わずにやってきていたが、新たに学校の一部の施設のご協力をいただいて、活動する場所を増やすことによって、学校で放課後を過ごせるように対応している。森岡地区については、公共施設の再編の中で、小学校を含め建て替えを考えていこうという構想があるので、今後大々的に建て替えをするということを踏まえると、今大きく手を入れるということはできない。今ある中で工夫して、なるべく多くの方が学校で過ごす事ができるように考えていかなければならない。森岡は学校と児童館が近いからよいが、石浜・緒川・生路は学校と児童館が離れており、交通事故の問題や、台風・大雨の際には保育士さんが児童を迎えに行くということをしている。解消していくために、町長政策ロードマップの中で、基本的には学校で放課後児童クラブができるよう多目的な使い方をしていくという方針は示している。今後小学校とも相談し、学校のどこのエリアであれば使えるのか、そのために必要な設備は何か、使うにあたって何が障害なのか、ということをつめていきたい。 2点目の学習障害に関して、学校に行けないお子さんには、体育館でふれあい教室という教育支援センターを開いている。学校と同じで出席扱いになり、先生もいる。今年4月からは、東浦中学校の中では、普通のクラスには行けない子に対して、校門から一番近いところに特別な支援をする部屋をつくった。将来の社会的自立に向けてどういった方法がよいのかというのをご家族と話したり、実際にフリースクールに行ってみえる方もいるので、個別でご本人やご家族とお話しをしたりしながら、なるべく最善の方法でやらせてもらっている。増えている問題であるので、引き続き取り組んでいきたい。 先ほど、校内カフェや朝ごはんの話があったが、緒川小学校でも地域の方が入っ

	て町の探検などをやられていて、6月末に全国から250名くらい視察に来てテレビでも取り上げられた。地域の方は学校で草取りをして、お茶を飲んで、ということをして、地域と学校と連携してやっているし、そういうことを進めていければと思う。学校ではアレルギーのこともあり、給食も気を遣っているのも、そういうリスクも含めて、どこまで地域と協力できるかということ、安全であるという前提の中で進めていきたいので、ご協力をお願いする。
委員	教師をしていた時、学校に対して不信感を持つ親御さんや子どもがおり、そういう方は、子のよいところを見つけてそこを伸ばし懇談会でほめると、親の意識が変わり、子も変わった。退職後は知多市で教育相談員をし、そこで虐待会議があったが、親が精神的に病んでいると子どもは変わらないと実感した。まず、いろいろな立場の人が親を支え、親が少し自信を持つと子どもは変わった。見守ることがいかに大切かということが分かった。虐待に関しても、そういう親に目を向けて、そこにいる子どもたちを救うために、何か少しでもできるように協力していきたい。
委員	私の子育てはほとんど終わっていて、孫の世話をしている状態である。少年補導というのは、小学校、中学校、高校ということでやっているが、最近もっと上の歳の人が多いという印象である。といっても、東浦町では、補導対象の人がすごく減っている。その辺りは皆さん安心していただきたい。ただし、半田と武豊の方では、昨年実績から3～4%増えている。傾向としては、南の方にいっているのかなと思う。予測としては、阿久比や東海市の方へ戻ってくるのではないかな。特に気をつけなければならないのは、夏休みに入った時である。個人的に月に2回、イオンを回っているが、東浦は本当に真面目な子が多く、話しをしても素直に答えてくれる。そういう面から見ると、まだ東浦はいいかなと思うが、油断するといけなないので、親御さんも注意していただきたいと思う。 最近、自転車の盗難が多い。調べていくと、施錠していないことが多い。イオンでちょっと買物してすぐに戻るといことで施錠せずにいると危ない。盗む人は遠くから見ている。ちょっとの時間でも施錠してもらいたい。そういう油断に付け入られてしまうので、事あるごとに子どもさんたちへ話をしていただきたい。 以上で会議終了。